

建設関連業種で活躍する「女子たち」の意気込みがもたらす恩恵とは!? 持続可能な体質を備えた業界の実現に向け性差を超えた取り組み①

【出席者=本紙編集部一同】

☆女性技能者の活躍が当たり前の時代になる日

司会者 本誌今週号の「業界ザッピング」欄でも少し触れているけど、建設業に携わる女性技能者の活躍を支え、バックアップすることを目的とする《一般社団法人・女性技能者協会》が、10月末に立ち上げられたね。建設現場のなかでも、進行管理などではなく、現場作業に従事する技能者を女性が担当することは、昨今ではあまり珍しいことではなくなってきたものの、まだまだ少数派だ。

しかし、そういう中で、改めて女性技能者の活躍に焦点を当てた団体が法人化されたということには、いろいろな意義があるのではないだろうか。今回の座談会はその最初の切り口にして、女性労働力についての現況と未来を、みんなで語り合いたいと思う。

記者B いいですね。賛成です。《女性技能者協会》はまだ発足したばかりで、これからどのような実績を積んでいくのかについては、予断を許さないところはあります。しかし、建設現場の戦力としての女性技能者をクローズアップしていくことは、確かにいろいろな意味で現状に適ったことだと思います。

記者C そうそう。女性技能者協会がこれから具体的にどうやって、建設関連業界内の女性活躍をバックアップしていけるのかは分からないけど、協会の立ち上げを中心になって推進したのは第一種電気工事士の若い女性だというよね。そのことだけでも、なんだか新しい波を感じます。

記者A 建設関連業界で女性活躍を側面から援護しようという動きそのものは、かなり以前からありました。日本建設業連合会の《けんせつ小町》の活動はよく知られているし、大手ゼネコンの公式サイトなどにはたいてい、自社の建設女子を取り上げたコー

ナーがある。

記者B 土木女子の活動も有名です。《一般社団法人・土木技術者女性の会》が中心になって、いろいろな取り組みが行われている。

記者D このあいだネットを見ていたら、兵庫県姫路市の建設会社・宮本組による《一般財団法人・けんせつ女子応援財団》という取り組みがありました。公式サイトには「土木・建築・設計及び理工学系の専門学校・短期大学・4年制大学に在籍している女子」の中で「卒業後、土木・建設をはじめとしたモノづくりに関わる仕事で活躍することを目指す女子」を対象に、返済の必要のない給付型奨学金(50万円)の支給を実施しているらしいです。

司会者 なるほど、自分たちが知らないだけで、そうした活動はかなり広範囲に、そして多岐に渡っているんだね。恐らくは、まだまだたくさんあるはずだし、電気設備工事関連に絞っても、例えば全日電工連の各支部などが積極的に、女性技能者の裾野を広げるための活動を実施している。

ただ、そういう意味では、女性活躍を促進するための活動は、これまで大手企業を中心とする活動と、組合を中心とする活動が中心だったともいえる。

そこへ最初に触れた女性技能者協会のような動き、つまり、中堅以下の規模の電気設備工事会社に勤務する女性技能者が中心になって、新たなうねりを起こそうとする動きが加わってきたということになる。それぞれに個性があって、建設関連業界のなかで女性の活躍を促そうとする動きの幅が、非常に広がりつつあるな、という感じだね。

記者Dほんと、そういうトレンドはつくづく感じます。ただ、一方では「なんとか女子」というような言い方については逆に、女性が男性に伍して、当たり前のよう